

# “私の”行為が私を変える

## —リスク状況下の行動形成における自己主体感の役割—

○ 田中 拓海<sup>1</sup>・川畑 秀明<sup>2</sup>

<sup>1</sup>慶應義塾大学大学院社会学研究科, <sup>2</sup>慶應義塾大学文学部  
kino31513@gmail.com

### 目的

**自己主体感** 自分こそが行為をコントロールし、外界に影響を与えている主体であるという主観的感覚

ヒトは一般的に、ネガティブなイベントの原因を自分に帰属しにくい（自己奉仕バイアス）

⇒ 精神衛生上の利点はあるものの、ネガティブな経験を引き起こした行動を修正する上では自身の行為と結果を正しく結びつけることが不可欠

自己主体感は、顕在的な帰属判断が行われる前からすでに、行為選択やその結果の価値に特有の関係を反映している (Tanaka & Kawabata, 2019)

この主観的経験は、適応的な行為とネガティブな結果の結びつけおよび行動形成に貢献しているのではないかと？

Q. 報酬 / 罰をもたらすリスク行動はどのような自己主体感を生み、その経験は次の行動を変化させるのか

### 研究1： 自己主体感 → リスク行動 の影響過程

64名の実験参加者がシンプルなギャンブル課題に取り組んだ。

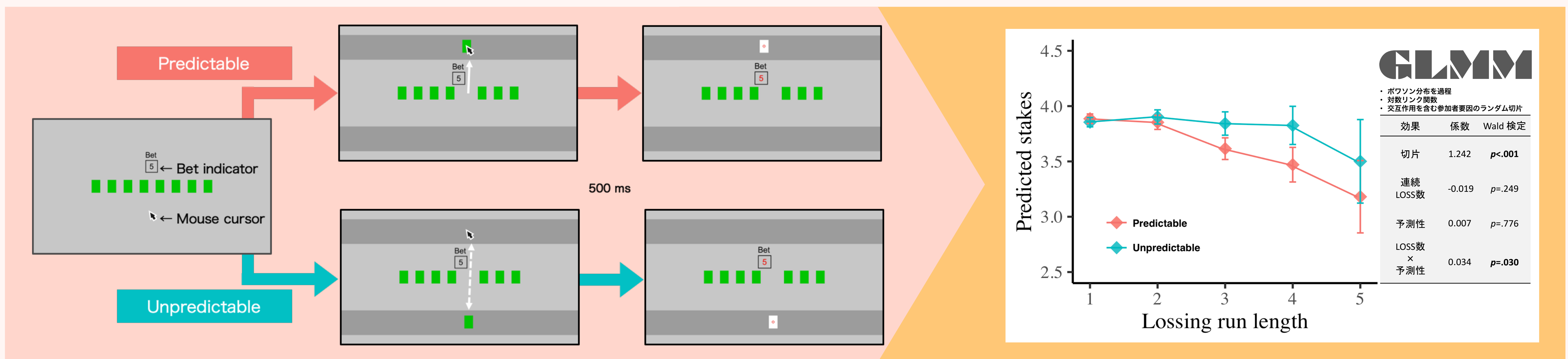
8枚中?枚のあたりを引き当てればベット（1~10ポイント）が倍に、外れればゼロに。

当たりの頻度は実験者によりコントロールされ、16試行（=1ブロック）ごとにカードが入れ替わると教示

マウスによるドラッグ操作によりカードの選択が行われたが、

半数のブロックではカードはマウスと同方向に移動し（Predictable条件）、

もう半数のブロックではランダムに座標変換が加えられた方向に移動することで自己主体感が阻害された（Unpredictable条件）。



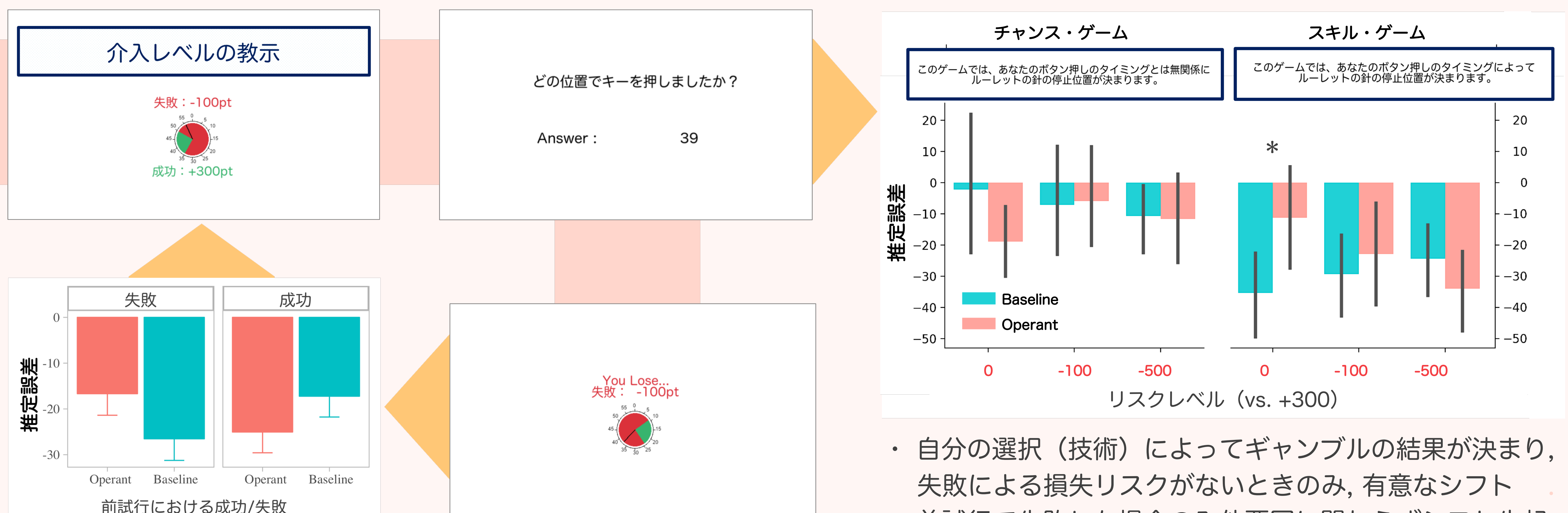
移動方向の予測性は運動や結果そのものに無関係であったにも関わらず、連続してハズレを引いたときに掛け金を低くするといった参加者の適応的な行動変化は、Unpredictable条件では阻害された。

### 研究2： リスク行動 → 自己主体感 の影響過程

研究1の結果は本当に自己主体感の変化によるもの？

通常の主体感形成時にも、リスク行動の変化の原因となる、あるいはそれに対応した自己主体感の変化を取り出せないか。

ルーレット・ギャンブル中にIntentional bindingにおける行為のシフト（自己主体感の潜在指標）を計測することで検討



- ・ 自分の選択（技術）によってギャンブルの結果が決まり、失敗による損失リスクがないときのみ、有意なシフト
- ・ 前試行で失敗した場合のみ他要因に関わらずシフト生起

A. リスク行動が求められる状況において、

(1) ハイリスクな行動に対する主体感は減衰する一方、

(2) 失敗の後の行為—結果の結びつきは強化される。実際、

(3) 自己主体感の欠落によって、罰の経験による行動の修正が阻害されることが確認された。